

株式会社くりんか

福岡県宗像市

生産性向上

需要獲得

担い手確保

ものづくり

サービス

ポイント

石炭灰を100%リサイクルした「くりんかロード工法舗装」の普及を通じて、社会に“安心”と“潤い”を届ける企業

- 石炭火力がベースロード電源の国々でインフラ整備・リサイクル深耕・雇用対策を実現
- 石炭灰を100%活用し職人の手で仕上げることで世界最高峰の保水力を実現した環境創造型多機能舗装
- 電力会社が工事に石炭灰を活用する環境経営型ビジネスモデルを通じ社会問題・環境問題の解決に資する

企業基本情報

所在地	福岡県宗像市東郷 2-6-7
電話/FAX	0940-36-9763/0940-36-9764
URL	http://www.kurinka.com/
代表者	代表取締役 榎木 忠秋
設立	2009年
資本金	4,000万円
従業員数	20人



会社概要

同社は2009年の設立以降、同社で開発特許取得した「くりんかロード工法舗装(以下、くりんかロード)」の工事・ライセンス事業を推進中。「くりんかロード」とは、ゲリラ豪雨やヒートアイランド現象等の環境問題へ対応するため、石炭火力発電所から排出される石炭灰(産廃)を骨材として100%活用し、透水性・保水性・景観性などを兼ね備えた環境創造型多機能舗装である。同社は、「くりんかロード」で培ったビジネスモデルを武器に、東アジアを中心とした海外にも展開し急成長を遂げている。



会社外観

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

東アジアでの「くりんかロード」の普及を促進

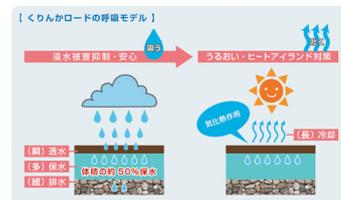
ベースロード電源を石炭火力に依存する東アジアでは、石炭灰リサイクル等の環境問題への対応と同時に、経済成長に伴い歩道・公園といったインフラ整備も急務、また、溢れる労働力に対して雇用対策も求められている。そこで同社は経済産業省やJETROの支援等を活用し、モンゴル・台湾・ベトナム・マレーシア等の現地企業を発掘し「くりんかロード」のライセンスビジネスを推進中。すでに、モンゴル・マレーシアはパイロット事業まで完了しており、2018年にはライセンス契約の予定である。



マレーシアパイロット事業

世界最高峰の保水性能を誇る環境創造型多機能舗装を創る

「くりんかロード」は石炭灰のリサイクルだけでなく、地球環境の保全にまでその効能を広げた多機能舗装である。石炭灰と樹脂を混和した「透水層」、石炭灰とセメントを混和した「保水層」から構成される2層構造を採用することで、透水しながら保水する高い機能性を実現。石炭灰の魅力である「高保水性」を引き出す為に転圧を行わず、「手仕上」とすることで世界最高峰の保水量(体積の約50%)を達成し、「安心」と「うるおい」を提供。



環境創造型多機能舗装による呼吸モデル

電力会社の石炭灰リサイクルを促進させ環境・社会問題を解決

電力会社から発生する石炭灰を活用した「くりんかロード」を自社の送電鉄塔敷地の舗装工事に積極的に利用することで、電力会社の地産地消に資するビジネスモデルを構築すると同時に、電力会社にとってのCSR・企業価値向上に寄与。また、近年の異常気象によるゲリラ豪雨・気温上昇等の環境問題に対しても、遊歩道・広場等に「くりんかロード」を敷設するなど、地球に優しい事業化も多角的に展開中である。



産廃自社消費推進型モデル